

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1190600021		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	春日部ケアセンターそよ風		
所在地	〒344-0004 埼玉県春日部市牛島391 (電話) 048-753-3820		

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター		
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ		
訪問調査日	2007年9月18日		

【情報提供票より】平成19年9月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤7人, 非常勤6人, 常勤換算6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての		2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	27,500円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(1年間)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	1日1,400円			

(4) 利用者の概要(9月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秀和総合病院、かみむら歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは、利用者が自分の出来る事や好きな事をして、家庭的で落ち着いた暮らしをしている。それを包み込むように、職員は個々の利用者の性格や生活習慣を尊重しながら、自然な形で溶け込んでいる。鉄筋造りの2階建ての建物の2階部分にホームがあり、設備が良く、清潔で明るい。1階のデイサービスとは、日常的に交流をもっている。大きな組織が経営するホームであり、近隣に系列の事業所も点在し、お互いに話し合いや勉強会も行っている。また、職員は利用者を個別に受け持ち、責任を明らかにしながら勤務にあたり、自分の目標を掲示して、自己成長を図っている。更に理学療法士によるリハビリテーションも進められている。様々なイベントを企画し、勢力的に実施している元氣なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初回の外部評価につき該当なし。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員や、運営推進会議を巻き込んでの自己評価にはいけなかったが、日々の業務の中で前向きに今後の課題も出され、検討されている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 議事録には、ホームの報告・家族の質問・提案や意見交換が記載されている。調査日に近隣から幼稚園児の訪問があり、遊戯を観賞したり、ゲームに加わった利用者は、「可愛かった」と大変喜んで話されていた。こうした取り組みは、運営推進会議のメンバーの提案により実践されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 重要事項説明書の中に、相談窓口として、ホームの管理者の氏名及び市役所・国民健康保険団体連合会の連絡先が明記され、家族への説明がなされている。また、ホームからは、毎月家族に向けて、「ホーム便り」等で個人の生活の様子を知らせ、家族の面会時には、必ず職員が声をかけ情報提供や心配事の解消に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議には、自治会長・民生委員も参加している。ホームのイベントを自治会の回覧板で地域に知らせている。また、利用者が、地区まつりや児童館での催しに参加したり、ホームの納涼祭などには地域の人に呼びかけ交流している。又さらに、近所で畑を提供してもらい、利用者と職員がともに畑仕事を楽しんでいる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達は、高齢化社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく、元気で健やかなヒューマンライフを支えます。」を理念として掲げているが、これは設置主体である会社の理念であり、「春日部ケアセンターそよ風」独自の理念はない。		「共に生きる」をテーマに、現在グループホームの理念を検討中であるが、実践している地域に根ざし、その人らしい生き方を支える理念を生み出すことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社組織の一員として、グループホーム会議やユニット会議などで、理念を振り返りお互いに意見交換をしている。就職して3ヶ月の職員の個人目標を聞くと、「笑顔で毎日を過ごす」という事であり、一人ひとりの職員が理念を日々の実践に活かしている様子が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が自治会に挨拶に行っている。また、自治会の回覧を利用した広報活動もしている。地区祭りや児童館での催しに出向いたり、ホームの納涼祭などには、地域の人々の参加を呼びかけ、交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム開設時には、評価の意義について、職員に啓蒙したが、今回、実際には、管理者とユニットリーダーのみの話し合いで進めた。その結果として自己評価の意義や内容について知らない職員もいた。		初めての評価でもあり、評価結果から、意義や内容を含めて、職員全員または運営推進会議等で話し合い、情報を共有し、前向きに取り込む事を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、家族・自治会長・介護相談員・地域包括支援センター職員・民生委員・ホームスタッフであり、2ヶ月毎に開催されている。議事録から、ホームからの報告や家族の質問、様々な提案や意見が出されていることが確認できる。尚、調査日に近隣の幼稚園児の訪問があったが、運営推進会議のメンバーからの意見により実現された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員は、月1回利用者の観察や相談に応じている。市の担当者に関しては、第1回運営推進会議で、「介護保険制度」の講義を依頼した。また、運営推進会議の結果を、その都度市担当者に報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に向けて、利用者個人の生活の様子を毎月ホーム便りや書面で知らせている。また、家族の質問や不安については、面会時などでそのつど対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で質問や意見は出されているが、同会議への家族参加は、2名～5名であり、家族全体からみて一部の意見である。家族全体の意見は反映されていない。		管理者は、家族会を立ち上げたい意向がある。ぜひ、仕事で参加出来ない家族の考えや気持ちも汲み取れる仕組みづくりを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットがワンフロアの為、利用者はどちらのユニットの職員とも馴染みの関係ができています。また、デイサービスとの関係づくりも良い。異動や退職の際には利用者本人と家族への報告をしている。なお、利用者個々への介護の担当者を決め、利用者や家族が困らないように配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の他に、年1回の研修受講が義務付けられている。また社外研修や会社で資格取得への応援もある。なお、職員個々の成長やお互いのモチベーションを高めるため、ホーム独自で半年毎の個人目標をそれぞれに設定・掲示し、目標の達成に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同一法人の別事業所である「グループホームそよ風」の職員との連絡会や勉強会を実施している。また地域包括支援センターとの交流も大切にしている。会社の系列以外のグループホームとは、交流はない。		同一法人の事業所だけでなく、他の事業所の見学や訪問などの交流も、サービス向上のために良いと考えられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所にあたり、本人や家族から聞き取りをしたり、精神や身体状況の観察をして、アセスメントをしている。また、できる限り職員と一緒に過ごして、生活リズムを把握しながら、無理をせず、利用者本人の気持ちに配慮して過ごしてもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームのテーマである「共に生きる」に沿ったケアを心がけている。生活の中で、本人がしたいこと、出来ることを応援したり、励ましたりしている。また、利用者から職員が気づかせられたり、慰められたりすることもあり、共に支え合う関係が築けている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの生活のリズムや生活のペースを十分に理解して、個々の利用者の希望に沿った生活をしている。食事時、自己表現をしない利用者に関しても、根気よく本人に確認しながら、自分で決めて行動できるように対応していた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の情報や意向をふまえた介護計画が立てられている。計画の中には一部が未完成のままのものがあった。		本人や家族の意向と日々の記録を連動させながら、速やかに計画の立案をする事が望ましい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にカンファレンスを持ち、目標を振り返っているが、1年間計画の見直しが行われていなかったり、見直し時期の記載のないものがある。		事業所としての見直し基準を定める。また、見直し時期は計画立案時に定め、その時期を計画書に明確に記載してはどうか。見直しをして変更がなければ、継続や続行など、明確に記載しておく事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月に6回理学療法士によるリハビリテーションを受けている。医療との連携は、提携病院・医院・歯科医院と図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、かかりつけ医を決めている。また、希望者には、提携医による往診や薬の処方など、健康管理をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ対象となる末期の事例はない。ターミナル研修への参加はしているが、実際に、本人や家族や職員同士の最後の看取りについての話し合いはしていない。退院の近い利用者について、医療機関や家族との話し合いはしている。		本人が元気なうちから、最後の生活の場をどうしたいのか、本人やその家族、ホーム側が話し合いで確認し、事業所としての方針を出される事を期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、食事介助等、本人のペースに合わせて声かけをしていた。一斉に皆で一緒に行動をするのではなく、個々への配慮が行き届いている。記録類はきちんと戸棚に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調査日の昼食後は、利用者が自発的に食器を拭いたり、掃除をしたりしていた。また、テレビを見ている人・ゆっくりと食事を続けている人、喫煙している人等利用者一人ひとりがその人らしく過ごしていた。職員は、個々の意向を汲み取り、観察しながら一緒に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食のうち昼食だけは、デイサービスの厨房で作ったものを配膳している。職員は、利用者の間に入り、利用者と一緒に食事を食べながら介助や見守りをしている。朝夕食は、食事づくりや片付けの役割も自然にできている。また、時には外食も楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く左右に浴槽があり、真ん中をカーテンで仕切れるようになっていて、ゆったりしている。入浴時間帯は夕方に限られているが、毎日の事なので、利用者主導で、入浴の順番が定まっている。時々、季節感を取り入れた菖蒲湯や入浴剤を入れて楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野に関しては、積極的に行ってもらっている。また、利用者に得意分野を教えてもらった際には、感謝の言葉を伝えたりしている。子供の頃から習い、覚えた民謡を楽しむ利用者や、散歩・買物・畑を借りての野菜づくり・イベント参加なども楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出・外食・散歩など、利用者一人ひとりの希望を聞きながら実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。静かな市街地であり、ホームの前は大きな駐車場で、交通量も少ない。外出したい場合は、必ず職員と一緒に行くようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署と共に年2回実施しているが、地域の人々との協力体制はできていない。		日常的に、近隣の方々との交流を図り、運営推進委員の協力も得て、地域の人々の協力を得られる災害対策の体制作りをする事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に応じて、適切な水分が摂れるように配慮している。また、できる利用者は、自分でお茶を入れている。献立については、管理栄養士の協力を得ている。栄養のバランスを考え、声をかけたり、食事時間を十分に確保したり、全面介助の利用者の支援等と様々な工夫をしている。栄養ゼリーの使用も時に活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体にスペースが広くゆったりしているため、くつろぎやすい。階段も閉塞感なく明るく、踊り場には椅子も設置してあった。居間はテーブルを2個離して並べ、周囲にソファやテレビ・サイドテーブルや椅子があり、自分の居場所も確保されている様子が伺えた。コンクリートの玄関周りには、プランターに花が植えられていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの周りに椅子やテーブル、使い馴れた鏡台・箆笥や物入れ、大きなテレビなど個別に部屋の様子が異なっている。本人が気にいっている俳優の写真が壁に貼られていたが、職員が持ってきてくれたとの事であり、その人らしい部屋づくりへの配慮が伺われた。		